

教習コースを自動運転技術の実証の場として活用 (1/2)

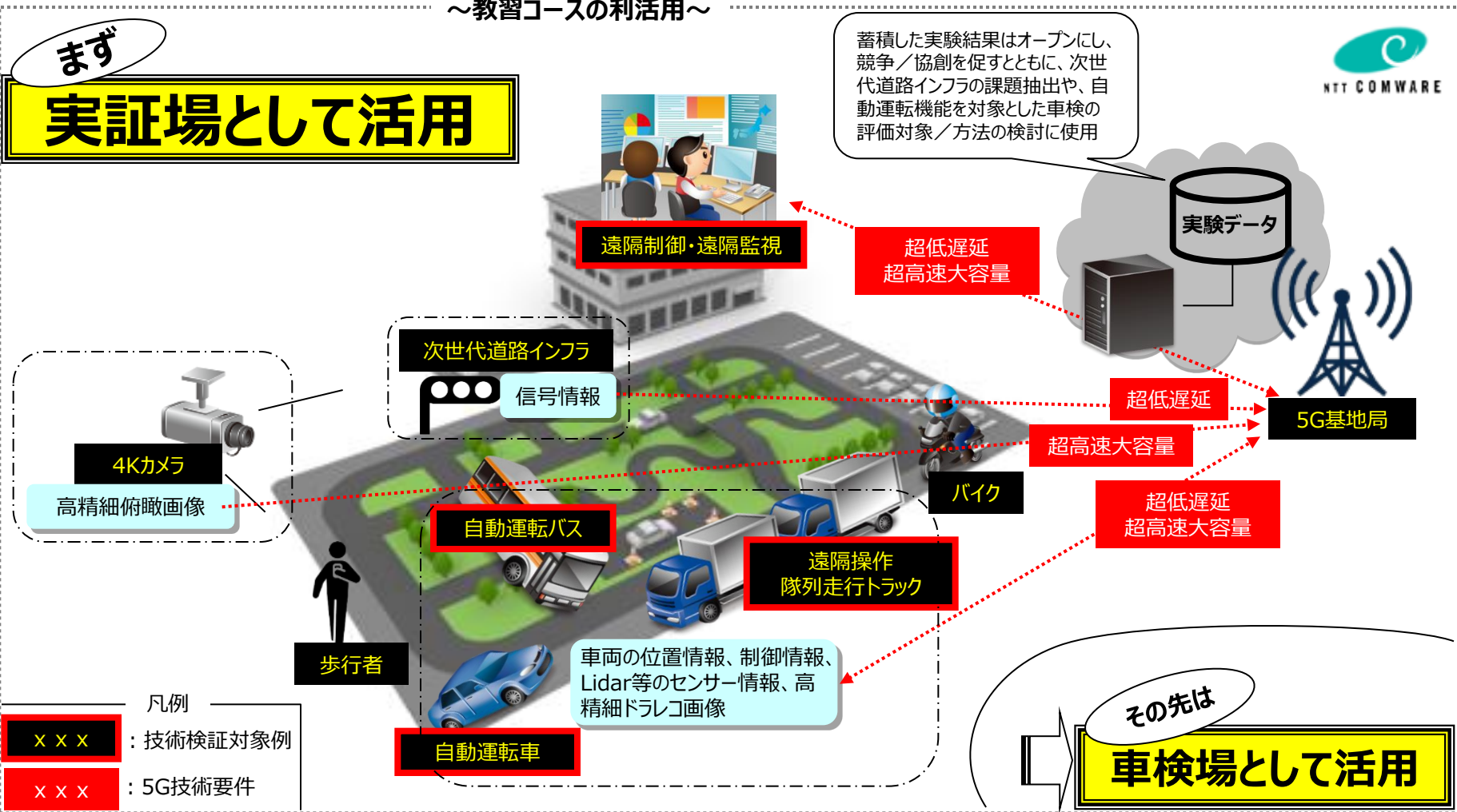
提案者名 **NTTコムウェア ビジネスソリューション本部 岩見正則** 連絡先 **Mail : bi-bid-m2m@srv.cc.nttcom.co.jp**
Tel : 03-5796-3160

- [概要] 自動車教習所の教習コースを自動運転車の実証実験場所／自動運転機能の車検場として利活用する構想である。
- [アピールポイント] 公道ではできないシナリオの実証ができる。(「通常の自動車／バイク／人と、自動運転車」や「異なった事業者が生み出した自動運転車同士」の交差点挙動の複合実証、次世代道路インフラと自動運転車間の先読み通信、S字・クランク・縦列駐車等の制御実証等)
- [もたらされる効果] 自動運転技術の向上と、実証参加者の長期滞在による地元宿泊所の稼働率向上が期待できる。

～教習コースの利活用～

まず

実証場として活用



教習コースを自動運転技術の実証の場として活用（2/2）

提案者名

NTTコムウェア ビジネスソリューション本部 岩見正則

連絡先

Mail : bi-bid-m2m@srv.cc.nttcom.co.jp
Tel : 03-5796-3160

～教習コースの活用～

●[背景とアイデア]

- ・昨今、自動運転社会を見据えた自動運転車の運転制御機能や遠隔操縦、隊列走行等の実証実験が、国のPJやコンソーシアム、大学、ベンチャー企業等々の取り組みで実施されている。
- ・自動運転車が普及すれば交通事故の減少、過疎地の足の確保、ドライバー不足の解消等様々な課題解決に役立つと考えられている。
- ・その重要性からわが国としても自動運転車の実証実験の公道使用手続きを簡素化する等、国をあげて自動運転車の実用化に向けた動きを後押ししている。
- ・一方、自動運転技術についての評価方法は国としては定められておらず、評価方法や評価のアウトプットはその取り組み組織にゆだねられている。
- ・自動運転車を世に解放する際には、国民に安心感をもってもらうことは必須である。そのため、国として公平・公正かつ定量的な安全評価に加え、機能、品質の評価方法を定めた上で評価を行い、安全を担保する必要があると考える。
- ・そこで、若年者が減少し運転教習所としての役割が縮小している教習コースを利用することを提案する。自動運転技術の実証実験の場として活用し、更にその先では自動運転車の機能の有効性を公正な評価で定期的に検証する車検場としての活用を見据える。



●[ターゲットとなるユーザ]

- ・自動運転技術の実証実験を希望する組織（大学、モビリティメーカー、各種センサーメーカー、モビリティサービス検討組織等）

●[どのように課題の解決につながるか/もたらされる効果]

- ・教習所に実証実験場、車検場としての新たな価値を創出することにより、当該教習所が活性化する。
- ・この新産業は世界のデファクトスタンダードとなり、日本は元より世界から注目される場所となる。
- ・実証実験は多人数、長期日程に及ぶことが想定されることから、地元宿泊所への貢献や、各地域、海外からの見学者を受け入れることで、観光地としての価値も向上し、地域の活性化につながる。
- ・また、走行実証の場を提供することで自動運転市場への新規参入のハードルを下げ、更なる競争を促すことにより、自動運転技術の向上と、世界から見た自動運転社会の日本のプレゼンスを上げることに貢献する。

●[信越を選定した理由]

- ・教習所の課題は全国共通であるが、日本最大の敷地をもつ教習所を有し、冬季には積雪状態の評価も行え、観光地として発掘余地のある信越地域を選定した。
- ・観光白書(H30年版)によると、2017年(平成29年)の都道府県別宿泊施設の定員稼働率で長野県は22.6%とワースト1位